検定農家への情報提供

（増刊）牛群検定通信 No.１５６

令和６年１月

家畜改良事業団
T03-5621-8921

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いします。

本年もいろいろな情報をドンドン発信しますので
どうぞよろしくお願いします。

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

１　全酪新報　１月１日号　全国酪農協会
第３１回繁殖改善で経営向上「牛群検定活用しよう」渡邊　徹　家畜改良アドバイザー
分娩後2日間搾乳を止めることは、乳頭や乳房炎の状態により不可

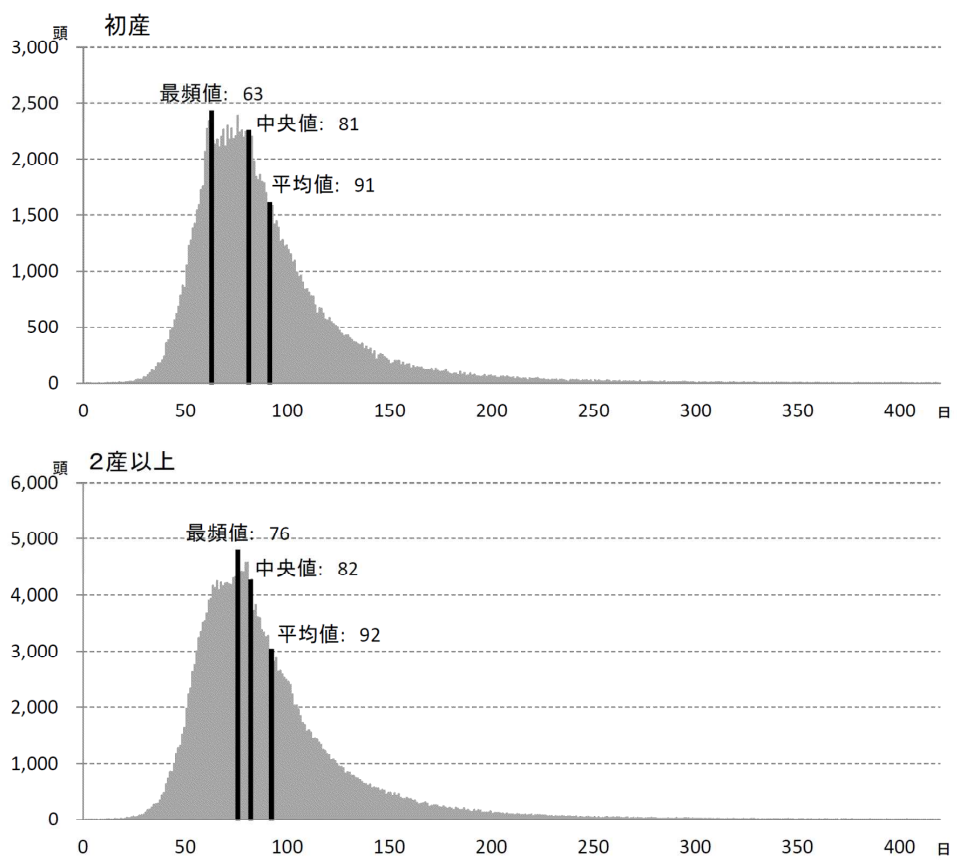
２　デーリィマン　１月号　デーリィマン社
牛群検定の読み方（その１６）
成績表の「死産」が5%超なら、見回り強化など要改善

３　ＬＩＡＪニュース１月号　（一社）家畜改良事業団
①新しい牛群検定成績表について（その８８）　検定成績表見方　検索
ケーススタディ体細胞数2
②牛群検定ビッグデータ（その３１）
生年別305日乳量について

分娩後初回授精は６０～８０日で！

１月は大変に寒い季節ですが乳量や繁殖が改善する時期です。発情を見逃さずに適時授精するようにしてください、特に分娩後初回授精は繁殖改善のポイントのひとつです。下図に示したとおり、平均では90日以上になっていますが、最頻値や中央値から、実際には60～80日に初回授精を行う農家が主流です。検定成績表ではご自身の初回授精の状況を下図により見ることができますので、ご確認ください。

令和4年度　分娩後初回授精日数（全国）



牛群検定成績表（1枚目）の右下段

授精報告	未経産	3 頭	100 %
	経　産	32 頭	67 %

頭数分布		頭数	分娩後日数				
			59日以下	60～79日	80～99日	100～119日	120日以上
今月の未授精牛		16 頭	9 頭	3 頭	1 頭	頭	3 頭
初回授精	前月	2			1	1	
	(%)				50	50	
	3ヵ月	5			2	2	1
	(%)				40	40	20
	過去1ヵ年	30	2	4	8	9	7
	(%)		7	13	27	30	23
繁殖に供さない牛							頭

上図は初回授精が遅れている事例です。

牛群検定！点検シート（その６８　冬季の検定成績表）

お手許の検定成績を使いながら牛群管理の点検を行います。極簡単なものなので、これを機会に検定員といっしょに確認を行いましょう！今回は、**冬季に注意**しなければならない事項のチェックです。

農家コード　　氏名

１）検定成績表裏面の年間子牛生産状況の「推定子牛早期死亡」が５％をこえていませんか？

Ｙｅｓ　　Ｎｏ

→Yes　冬季の子牛管理に細心の注意を！（参考：前号で詳しく解説　）

http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/gyutuzoukan.html　**増刊牛群検定通信　検索**

２）図１は、検定成績表の２枚目です。乳量の欄に矢印①のように▽▼マークがタテに沢山並んでいませんか？

Ｙｅｓ　　Ｎｏ

→Yes　冬から春にかけては、乳量がもっとも伸びる時期です。この時期に一斉乳量減少は最も避けなければならない大きなトラブルです。

３）図２は、検定成績表の１枚目中央です。体細胞数情報において矢印②のように冬季の体細胞数が高くありませんか？

Ｙｅｓ　　Ｎｏ

→Yes　一般に冬季の体細胞数は低くなります。もし、逆に高くなるようでしたら、何らかのトラブルです。

図１

牛コード	乳量(kg) 今月 1回	2回	合計	標準乳量	前月	前々月
0121	9.0	12.0	21.0	24.4	23.0	23.2
0017	17.2	10.4	▼27.6		34.6	37.8
0063	12.4	8.4	▽20.8	3	24.2	▽25.6
0120	6.0	8.0	▼14.0	5.8	26.6	24.0
0106	11.0	13.6	24.6	27.9	▽24.0	28.0
0003	14.0	15.0	▽29.0	32.9	35.0	▽37.4
0119	15.0	9.6	▼24.6	30.3	30.8	31.4
0118	14.0	10.0	▼24.0	29.6	31.0	30.0
0093	10.0	18.0	28.0	35.2	22.6	23.0
0074	8.0	8.0	▼16.0	22.7	▽20.0	22.4
0031	14.6	13.4	▼28.0	36.7	36.0	39.2
0098	13.0	12.8	25.8	36.2	26.8	29.0

①

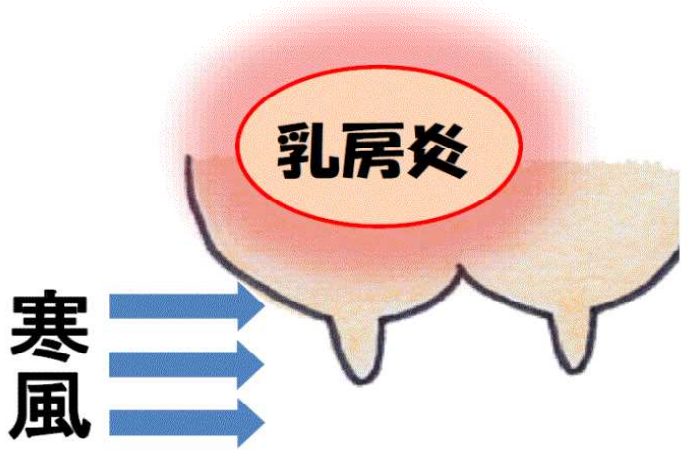
全頭一斉に乳量が下がった場合は、先ずは搾乳機器を点検して下さい。冬は機械に不具合が発生しやすく、真空圧の確認が必要です。飲水も確認しましょう。水道管の凍結も要注意です。

飼料も水分が多いとシャーベット状になり、冷たい水と重なり下痢や栄養不足の原因となります。また、図２のような冬季の乳房炎が蔓延しても一斉に乳量を落とす原因となります。

冬季は乾燥しやすいことから寒さに強い乳牛でも、感冒（風邪）が牛舎内で流行することがあります。この場合は、子牛に感染すると肺炎を起こします。早めに獣医師に相談してください。

図２

移動13ヵ月成績 検定年月日	体細胞情報 体細胞数平均 千/ml	搾乳牛頭数比率 70以下 %	71～282 %	283以上 %	千/ml 新規 %	千/ml 頭数 頭	乳量損失率 %	損失乳代(月当り) 千円
24.10.26	146 (3.0)	36	51	13	6	5	2	157
24.11.22	181 (3.2)	32	47	21	12	11	2	166
24.12.21	165 (3.1)	35	50	15	9	8	2	154
25.01.24	301 (3.4)	29	47	24	11	9	2	161
25.02.22	426 (3.9)	25	41	34	8	12	2	274
25.03.26	423 (3.4)	25	49	36	5	9	2	216
25.04.24	189 (3.1)	31	53	16	6	6	2	154
25.05.28	176 (3.1)	38	46	16	7	7	2	145
25.06.18	149 (3.0)	40	42	18	7	6	2	122
25.07.24	229 (3.3)	34	43	24	11	9	2	143
25.08.26	217 (3.2)	31	53	16	4	3	2	161
25.09.24	238 (3.2)	36	45	19	8	7	2	172
25.10.23	238 (3.1)	38	46	15	6	6	2	195
平均・計	203 (3.2)	33	49	18	8	7	2	1894
前年成績	211 (3.1)	37	47	16	6	5	2	1677

②

乳頭が、ヒビやアカギレで荒れていませんか？搾乳時に乳頭をチェックして下さい。乾燥した冷たい寒風が、乳頭に直に当たらないようにしましょう。やや高価ですが保湿剤入りディッピング剤も販売されています。